

(様式)

フォローアップ研修実施報告書

教育事務所名	相双教育事務所
講座開催日	平成29年1月30日(月)
会場	原町区福祉会館(南相馬市)
参加人数	30名(ファミリーサポーター2名、保育所・幼稚園関係者3名、児童委員1名、行政関係者5名、その他17名、事務所2名)
講師及びテーマ	講演Ⅰ「子どもたちに魔法の杖を ～自信を育む家庭教育～」 NPO法人明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明 氏 講演Ⅱ「家庭・地域でみまもる特別支援教育 ～『きつずサポートかのかん』の取り組みから～」 特定非営利活動法人きぼう 副理事長 新妻 直恵 氏
活動内容	
<p>1 開 会</p> <p>2 主催者あいさつ 福島県教育庁相双教育事務所 主任社会教育主事兼指導主事 草野 収</p> <p>○ 諸連絡</p> <p>3 講演Ⅰ「子どもたちに魔法の杖を ～ 自信を育む家庭教育 ～」 講師 NPO法人明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明 氏</p> <p>(1) 明日飛子ども自立の里について</p> <p>① 自己紹介に変えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ねむの木学園」での実践 → 家族からの一言(家庭を顧みないことへの気付き) ・ 日本一子育てのしやすいところ=鮫川村での生活を始める。 ・ 廃校を利用してふるさと留学から始める。のちの明日飛子ども自立の里 <p>② こんな立場から話をさせていただきます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が自立する手伝い ・ 自己肯定感、自己信頼感を育むお手伝い <p>③ 明日飛の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者が(安心して・自信を持って)働ける牧場づくり ・ 動物と関わるジョブトレーニング ・ 中間就労(古書プロジェクト) ・ 餃子プロジェクト(餃子で人を幸せに) <p style="text-align: right;">} スタッフが楽しめて 子どもが楽しめること</p> <p>(2) どのような子、若者と関わっているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニート、ひきこもりの若者が多い。 → 感性豊か、いい子であるが故のトラウマ <p>① 何をやってもうまくゆく子、ゆかない子 → 社会に合わせることから自分たちの周りの環境を変えること必要。</p> <p>② 人生の魔法の杖=自信(自己信頼感) → 失敗への恐れが行動に制限をかける。</p> <p>(3) どうすれば、自信を育めるか</p> <p>① 安心できる家庭で育つ、信頼感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームやメディアの弊害、ゲーム脳の問題 ・ 子育ての孤立化(子育ての悩みを誰にも聞けない) <p>② 成功体験の積み重ね</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しつけや学習習慣と同じくらい「自信」をつけることが大切である。 ・ 成功≠成功体験ではない。失敗=成功体験もある。 ・ 人は肯定されたときのみ成長する。 ・ 誉められる、人の役に立てると成長する。 <p>(4) 怖れない子どもを育てましょう</p> <p>○ 子どもを無条件で信じよう → 先回りされた子は育たない。待ってもらえた子は育つ。</p> <p>○ 足し算思考で伝えよう。 → 出来なくて当たり前。</p> <p>○ 肯定的に伝えよう (例)「勉強しないと、大人になってから困る。」 → 「勉強すると、大人になってからいろいろなことができる。」</p> <p>○ 子どもをまるごと愛して、信じて見守りましょう。</p> <p>○ 焦らず、完璧を求めず、自分が出来ることがあったら、1つずつ取り組みましょう。</p> <p>(5) 若者自立支援の立場からお願い</p> <p>○ 無理のない範囲での情報提供をおねがいします。</p> <p>○ 休憩</p>	

活動内容

4 講演Ⅱ「家庭・地域でみまもる特別支援教育 ～『きつずサポートかのん』の取組から～」

講師 特定非営利活動法人きぼう 副理事長 新妻 直恵 氏

- (1) 地域における家庭教育とは
 - 家庭教育は、すべての教育の出発点である。
 - 安心して子育てや家庭教育ができるよう、家庭教育の大切さを社会全体で考え、支援していくことが大切。
 - (2) 発達に伴う特徴として
 - 幼児期・学童期・思春期・青年期段階での特徴について
 - (3) 行動を特性から理解する
 - ① 冰山モデルについて
 - ・ 目に見える表面上の行動は一部であり、根本的な特性の部分は見えていない。
 - ② 運動会の例
 - ・ 1回ぐらいの練習でイメージができずに失敗してしまう。→苦手、キライ、できない。
 - (4) 地域における放課後等デイの役割
 - 関係機関との連携・・・教育・福祉・医療 → 一緒になって大人へ育てていく。
 - ① 相馬郡における障がい児受け入れ事業所の推移
 - ・ 震災以降、児童発達支援事業所と放課後デイサービス事業所の受け入れが増加している。
 - ② かのん利用児童の推移
 - ・ 「かのん」では、始め未就学児対象の事業所を開設した後、小学校通学対象と、養護学校通学対象と、対象者別の事業所を開設し、受け入れを進めてきた。
 - (5) 「かのん」概要
 - ・ (資料参照)
 - (6) 発達支援(療育)の視点
 - ① 合理的配慮具体的な例
 - ② 学習面での配慮について
 - ③ 構造化による支援について
 - ・ 困難なことを理解してもらうことが大切。
 - ・ 我々は構造化された社会で生活をしている。困り感のある子どもには、さらに詳しく構造化されたものが必要になる。
 - ④ 物理的構造化(トレーニング)
 - ・ 発達障がいのある子は、突発的な変更に対応できない。だから、予定表などを掲示するタイムカードコーナーで理解できるようにする。
 - (7) 学びを支える → 得意なことを伸ばす。
 - 指示が分かっているのか。理解できているのか。こだわっているのか。何が引っかかっているのかを知ることが大切である。
 - ① 聞く(ヒアリングトレーニング)
 - ② 見る(ビジョントレーニング)
 - ③ ソーシャルスキルトレーニング
 - ④ 体幹トレーニング
 - ⑤ 生活スキル訓練
 - ⑥ 社会スキル訓練 → 自分のことは自分でやることの訓練。
 - (8) 関係機関との連携
 - ① 関係機関との連携(資料参照)
 - ② 支援技術の提供
 - ③ 事業所内相談事業・家庭訪問支援事業
 - (9) 不登校・登校しぶりへの対応
 - ① 不登校の構造
 - ② 不登校児童に対する支援体制 → 事業所だけでは不登校は解説しない。連携が大切。
 - (10) まとめ
 - ① 人は十人十色
 - ② 子育ての極意
 - ・ プレないこと
 - ・ 親の背中を見て育つ
 - ・ 親子や支援者との信頼関係を築く
 - ③ 人としての尊重
- 5 閉 会



成果・課題

- 家庭教育実践者向きに、相双域内での重要な課題となっている「自己肯定感」と「特別支援教育・療育」のテーマについて、それぞれ実践されている方達から講演をいただくことが出来た。
- PTA関係者だけでなく、保育所・幼稚園や民生児童委員、NPO法人などの様々な所属からの研修参加者があった。
- 今回、双葉地方からの参加者がいなかった。双葉地方からの研修希望者をどのように掘り起こすのか、また、参加しやすいようにしていくかが今後の課題である。